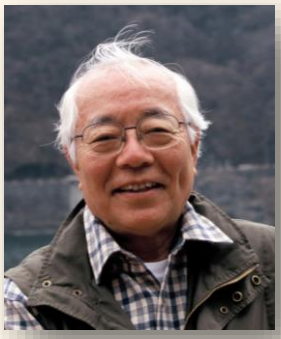
【 会員からの投稿 】

22 世紀の未来に向けて

特定非営利活動法人 日本水フォーラム事務局長　竹村 公太郎



中国では「十年樹木、百年樹人」と言い習わされているそうですが、我が国では「何某は国家百年の計」とよく言われます。

その意味で、今を遡ることちょうど百年前の 1914（大正 3）年に、土木学会が創設されたことは真に価値ある足跡として改めて感銘を受けます。その先人たちの礎の上に、今日までの我が国の隆盛、成熟が立脚していることに疑問の余地がありません。そして今日、私達は一世紀先の未来に向けて重大な責任を負っていることに思い至るとき、一介の関係者ながら襟を正さずにはいられない、そのような思いを皆さんも強くお感じになっていることでしょう。

昨年、我が国では、「水の憲法」と言うべき「水循環基本法」が成立、施行されました。その魂たるべき「水循環基本計画」が、政府の主導をはじめとし、有識者など関係各位のご尽力により目下、策定されようとしています。これは、明治維新以降初めての、水体系全体を統ずる理念の法制化であり、日本が世界に先駆けて取り組み実現したものです。これから私達は、これを真に意義ある日本の宝として、個人法人を問わずすべての国民ひとりひとりが、それこそ津々浦々で、大切に守り活かしていかなければなりません。浮薄な議論を許さず、世界に誇るべき日本文化のひとつとして育てていきたいところです。

水は、それ自体が謂わば、普遍的な存在です。河川、湖沼、海洋、雨水、地下水ありとあらゆる姿で人間に隣り合わせて、慈しみ深い恩恵と時に厳しい猛威を与えてくれます。のみならず、経済、産業、政治などをはじめとする、人間社会のあらゆる営みに常につきまとう、看過できないファクターでもあります。環境の世紀と言われて久しい昨今、水由来の諸課題はもとより、それらに起因ないし連関する 21 世紀的諸課題は枚挙にいとまがありません。災害、エネルギー、食料、紛争、そして生命に至るまで全てが当てはまります。最近では、これらに対し、水に着眼したパースペクティブを以て、既に先陣を切った取り組みに尽力されている方々も少なくありません。これまで培われてきた私達の叡智は、より良い人間社会と地球環境に貢献するものであるはずです。2020 年の東京オリンピックはもとより、一世紀先の未来に向けて、粘り強く対話と行動を続けていく以外にありません。

翻って十年前、日本水フォーラムは、第３回世界水フォーラムの、琵琶湖・淀川流域での開催を契機に誕生いたしました。命の源である水を将来の世代に間違いなく引き継ぐためには、水に関する基本理念を人類で共有することが重要であり、その為に我が国が国内外の水問題の解決に貢献することが肝要である、との認識を深めることとなったことを契機に、発足した団体です。国際社会での政策提言とその実現に係る活動、途上国を中心とした草の根支援活動、日本の叡智の世界への発信、人材育成・啓発を四本の柱とし、全方位的なステークホルダーとの協働を図りながら、日本と世界を繋ぐ架け橋として、また、様々な分野やセクターの垣根を克服するべく、多面的かつ包括的な取り組みを推進して参りました。今年新たな 10 年の始まりを迎えたわけですが、例えば、水資源保護の観点からの環境保全が、途上国のみならず先進国においても今後一層重要であるという総合的・統合的な認識を基軸とした大胆な発想と行動により、さまざまな活動を充実させて参りたい所存です。私どもの活動が、水の性質と同様に普遍的であるべく、非営利活動の団体らしさを存分に発揮しながら使命を果たして参りますが、その意味で、シビルＮＰＯ連携プラットフォームとは活動の流域を共にするものと考えます。百年の計を共に考え議論し、新しいパラダイムの発揚と構築に共に汗を流していけるものと確信しています。